

令和2年度 専門学校東京国際ビジネスカレッジ

自己評価報告書

令和3年5月1日

学校法人創志学園



専門学校 **東京国際ビジネスカレッジ**
TOKYO INTERNATIONAL BUSINESS COLLEGE

1. 学校の教育目標

幅広い外国語教育と国際感覚を兼ね備えたビジネスのスペシャリストを養成するための専門教育及び人格形成に必要な教育を行うことを目的に掲げ、国際社会において通用する専門性の高い知識と教養を修得する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) アジアおよびヨーロッパ諸国の 20 カ国の学生が共に学ぶ国際色豊かな環境を活かし、異文化理解を深め、協調性を身につけ、語学力(英語・日本語)を向上させ、世界の市場で即戦力となる人材の育成に努めていく。

(2) 入学時から就職内定を視野に入れ、日商簿記 2・3 級、TOEIC、MOS、ホテルビジネス実務検定、ジュエリーコーディネーター検定、色彩検定など専門性の高い資格取得を 1 年次に合格できるよう指導を行っていく。

(3) 国際言語コミュニケーション学科に Academic English Course 経営研究学科にグローバルエグゼクティブマネジメントコースの新コースを設置。

(4) 語学教育のレベルアップを目指し、教材およびクラス編成の見直しを行い、学内全体の英語力向上を目指す。また、Business Management コースを中心に英語でビジネスが学べる環境作りを継続して行い、国内における外資系企業への就職希望者をターゲットとしていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1).教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

・学校の理念・目的・育成人材像について、教職員がしっかり理解し、学生へは授業を通じ伝えている。また、学校案内やホームページなどに記載し、対外的に周知させている。

・保護者へは、入学式・卒業式への案内状を通じ、式典への列席やオンラインでの視聴参加を促し、式典を通じ当校をより良く知ってもらうようにしている。

・コロナ禍において、授業を登校して出席する学生とオンラインで出席する学生とに分けたハイブリッド授業を展開した。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った運営方法が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・One to One 学生指導を所属部署を跨いで全教職員に徹底していくため、教職員全体会議を定期的に行い、現場力向上、チームワーク強化、ホスピタリティ精神の育成に努めている。
- ・学校の目的、目標達成のため、企業より情報を求めている。
- ・コロナ感染症対策として、消毒・自動検温装置・飛沫防止シートを設置し、感染防止を行った。
- ・ホームページだけではなく、年間に数回ニュースレターを作成し、出身学校へ送り、教育活動に関する情報公開を行っている。
- ・学校関係者評価委員会報告書を公開している。
- ・学生の学籍管理はデータ化されており、出席証明書、成績証明書等の発行業務の効率化が図られている。

(3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 ② 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか。	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

【総括・特記事項】

- ・関連分野における実践的な職業教育として、提携先企業でインターンシップを実施している。
- ・教員の指導力育成などの資質向上のため、外部研修へ参加することを奨励している。
- ・欧米からの学生が入学し多国籍化が進んでいることから、アジア圏出身学生との文化の違いを把握した上での学生指導を行っていく。
- ・コロナ禍においても募集活動、教育活動を行うため、活用プロジェクトを組織して活用方法を検討し、全館配信システムを使い実施した。全館配信システムを活用したビジネス特別講義やプレゼンテーション大会などの行事を実施していく。

・教職員全体研修を実施している。

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図れているか	④ 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

【総括・特記事項】

・コロナ禍において、就職活動は厳しい状況ではあるが、学内で企業説明会を開催し、就職活動を早期にスタートできるように十分に指導している。

・学生の資格取得のために、日商簿記2・3級、TOEIC、MOS、ホテルビジネス実務検定、ジュエリーコーディネーター検定、色彩検定など専門性の高い資格取得を1年次に合格できるよう指導を行っていく。資格対策講座(受講料無料)を平日と土曜日に実施している。

・クラス担任制により学生一人ひとりのきめ細かいケアを行い、退学率の低減を行っている。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教員環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の 取組が行われているか	4 3 ② 1

【総括・特記事項】

・教職員から構成されている進学(大学、大学院)プロジェクト及び就職プロジェクトを中心に継続して進路指導の強化を行っていく。主に、大学院進学セミナーや学内企業説明会などの開催、各コースで実施している HR や専門性の高い資格取得(日商簿記 3・2 級、TOEIC 600 点以上他)などを通じて、1 年次からの意識改革を継続している。

・出席率・成績・授業態度の悪い学生においては、クラス担任より保護者へ連絡を行っている。また、適宜学生の家庭訪問実施し、学生の生活状況把握に努めている。

・卒業生には、学内で実施している資格対策講座を受講できるようにしている。受講料は徴収していない。

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

・コロナ禍において海外研修に代わり積極的なオンライン交流授業を実施。EMBA Business School(仏)と5回、ロンドン大学東洋アジア学院校(英)と1回実施。

世界大学ランキング第1位(ホスピタリティ教育分野)のローザヌホテルスクール(スイス)とは「ホスピタリティの理解」「Covid-19のホスピタリティ業界への影響」というビデオ教材を作成、1、2年生全コースの学生約900名がオンラインで受講した。

・避難訓練を実施し、非常時における教職員の役割を把握するとともに、学生へも非常時の行動を指導している。

・災害時で使用する水・カンパン・簡易トイレ等を備蓄している。

・1号館・2号館にWi-Fi環境を整備し、ICT教育の充実を行っている。

(7). 学生の受入募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

・国内留学生、海外留学生、一般生など各セグメントにおける学生募集のあり方を再確認し、日本語学校、海外教育機関、高校への情報発信の頻度を上げて対応する。近年、学生を取り巻く環境の変化が激しく、学生の求めるものも変化している。そのため、学生のニーズに合わせた募集活動を行っていく。

・全教職員で学生募集活動を実施している。

・学校説明会において、教育内容、教育成果を正確に伝えている。

・入学選考方法については、募集要項に明記し、適切かつ公平な基準に基づき行われている。

・学納金については、学生および保護者の負担を軽減するために、本校独自の奨学金や分納制度を利用できるようにしている。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計検査が適性に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開に体制整備はできているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定している。
- ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。
- ・会計検査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて公開している。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

- ・法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っている。
- ・全教職員で個人情報の扱いに十分注意し、管理している。
- ・自己評価の点検項目について今後も検討を重ねていく。
- ・ホームページにて自己点検・自己評価表の公開を行っている。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練を含む)の受託等積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

【総括・特記事項】

・浅草橋紅白マロニエ祭り、柳橋町会運動会、浅草地域帰宅困難者及び外国人観光客対応訓練ボランティアに学生が積極的に参加していたが、コロナ禍のため参加の機会がなくなってしまった。参加の機会があればこれまで通り参加していく。

・地域に対する公開講座・教育訓練の受託については、積極的に受け入れていきたい。

(11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・留学生の受入れ・派遣について戦略を行っているか	④ 3 2 1
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④ 3 2 1

【総括・特記事項】

・学生の学修・生活指導において学内で適切な体制が整っている。学生のアルバイト先の情報を把握している。

・日本留学 AWARDS 大賞受賞。(財)日本語教育振興協会が主催し、日本全国 400 校を超える日本語学校の教職員が留学生に勧めたい進学先として、専門学校部門の上位ノミネート校として 8 年連続表彰され、H29 年度・H30 年度・H31 年度・R2 年度と 4 年連続で大賞を受賞した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校の教育理念・目標を学生に対して理解、共有を徹底するため、「ホスピタリティ」の授業を全学生に実施することを継続し、今後グローバル化が進展した社会において最も求められる「異文化コミュニケーション」の力を育成するための取り組みを強化していく。本校は欧米7カ国11大学との教育連携を締結。コロナ禍において海外研修に代わり積極的なオンライン交流授業を実施。EMBA Business School(仏)と5回、ロンドン大学東洋アジア学院校(英)と1回実施。世界大学ランキング第1位(ホスピタリティ教育分野)のローザンヌホテルスクール(スイス)とは「ホスピタリティの理解」「Covid-19のホスピタリティ業界への影響」というビデオ教材を作成、1、2年生全コースの学生約900名がオンラインで受講した。語学習得だけでなく、実際に世界を知ることで異文化体験、異文化理解の機会を作ることができた。今後も提携校を拡大し、学生の異文化交流の機会を増やすことを継続していく。

コロナ禍の不安から、卒業を待たずに就職、進学、帰国を決断する学生が増加し、今年度もアルバイト需要の減少による経済困窮が予想されるため、保護者とも連携を強化して退学を防止していく。

更に高度な専門知識を習得するための資格取得ゼミナールを強化し、今後もより多くの学生が資格取得に向けた学習を継続できるよう、授業とゼミナールの両面からのサポート体制を強化していく。

企業との連携においては、これまで通りのホスピタリティ教育を継続すると共に、学内企業説明会の開催を継続、より多くの企業に直接本校での説明会を行っていただいた。今後は国内外の企業での就職の機会を増やすべく連携強化を図っていく。また、2019年12月竣工の2号館を中心とした地域連携を行い、これまで同様の浅草地域、浅草橋地域でのボランティア体制を確立し、積極的にボランティア精神を養う活動を継続する。

より国際感覚を持つ人材が求められるようになっている現在において、本校の目標とする「ホスピタリティ精神を持った人材育成」「異文化理解のできる人材育成」は重要であることを教職員間でも再認識し、「リエゾン人材」として世界で活躍できる国際感覚を持つ人材を輩出すべく、取り組みを強化していく。